

# 令和3年度 事業計画

## 1. 運営環境

少子高齢化が進むと同時に、子どもを取り巻く環境が大きく変化する昨今において、子どもの命や健康を守ることはますます重要になってきています。加えて、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えており、若年層の自殺者や虐待数の増加なども懸念されています。

そのような中で、小児医学研究者に求められる役割はより一層大きくなっていると同時に、小児保健従事者や子育て世代の子どもに関する問題についての理解や、きめ細やかなケアはこれまで以上に必要になっています。一方で、小児医学に振り向けられる研究費は十分とはいえない状況が続いています。また、小児医学の知識を必要としながらも、その機会を十分に得られていない小児保健従事者や子育て世代がいることも確かです。それだけに当財団への関心や期待も年々高まっています。

## 2. 令和3年度事業活動の基本方針

令和3年度は安定的な収入が見込まれるため、既存事業を着実に実行するとともに、ウィズコロナ・アフターコロナの時期において、さらなる支援を必要としている各所に対する活動を強化する予定です。具体的には、「研究助成」および「奨学金給付」ならびに「出前セミナー」において支援の幅を広げ、この厳しい状況下でも子どもたちの健やかな成長に寄与できるように事業を実施いたします。

## 3. おもな事業の実施計画および活動計画

### (1) 助成金の支給

小児医学研究者に対して助成金の交付（「研究助成」）を行います。対象は、日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者となります。小児医学における研究の幅が広がっていると共に、新型コロナウイルス感染症に関連した研究の必要性も増しているため、当年度の研究助成の予算は72,000,000円とします。そのうち「一般枠」とは区別して、若手研究者の研究について「若手枠」を設け、対象者を広く募集し研究助成を行います。

また、小児医学研究の向上・発展に寄与することを目的として、小児医学に関連した医学会開催の支援（「医学会助成」）も行い、予算は5,000,000円とします。

さらに、医療施設に入院中の小児患者のQOL（生活の質）向上のため、それに要する活動および設備の充実のための費用について、埼玉県内の医療施設へ助成金の交付（「小児医療施設支援」）も行います。応募件数の増加を踏まえ、予算は1,500,000円とします。

助成金	72,000,000円
医学会助成	5,000,000円
小児医療施設支援	1,500,000円
総額	78,500,000円

(2) 小児医学川野賞の表彰

この賞は、小児医学研究を奨励することを目的として、設立 10 周年を記念して設けられました。平成 30 年度まで「基礎医学分野」「臨床・社会医学分野」の 2 分野での贈呈とじていましたが、公衆衛生など社会にとって重要である社会医学分野のさらなる発展に寄与するため、令和元年度より「臨床・社会医学分野」を 2 つに分け、「基礎医学分野」「臨床医学分野」「社会医学分野」の全 3 分野での募集を開始しました。各分野で優れた業績をあげ、今後の活躍も大いに期待される研究者に対し、小児医学川野賞をそれぞれ贈呈します。

基礎医学分野	1,000,000 円
臨床医学分野	1,000,000 円
社会医学分野	1,000,000 円
総額	3,000,000 円

(3) 奨学金の給付

コロナ禍において、経済的に困窮している学生が増えていることを鑑み、奨学金給付の募集エリアを拡大します。これまでは埼玉県内の高校を卒業した医学生のみを対象としていましたが、当年度からは、埼玉県または千葉県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生に対して、奨学金の給付を行います。令和 3 年度は、継続給付予定者 17 名、新規給付者 10 名、合計で 27 名への給付を予定しています。

継続給付	12,240,000 円
新規給付	7,200,000 円
総額	19,440,000 円

(4) 小児保健に関わる人々に対する啓発活動

子どもに関する問題が年々複雑化するとともに、新型コロナウイルス感染症による生活環境の急激な変化は子どもの心身に大きな影響を与えています。その中で、日々、児童生徒に向き合う養護教諭や就学前教育・保育施設（保育所・幼保連携型認定こども園・幼稚園等）の看護職は、ますます高度な対応を求められています。本事業では、これまで養護教諭のみを対象としていましたが、当年度より就学前教育・保育施設の看護職も対象といたします。

養護教諭や就学前教育・保育施設の看護職が、児童生徒等の抱えている健康上の問題について学び考え、それらの対応について知識を深めるために行っている研修会や勉強会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を無料で派遣します。

講師料	1,200,000 円
旅費交通費	100,000 円
総額	1,300,000 円

#### 4. 予算編成方針

収益面は、基本財産組入株式の増配および安定した寄附が期待できると考え、前年度より増加すると予想されます。これにより費用面では、各事業運営のための十分な予算確保が可能になるため、各事業の充実や拡大に資金を振り分ける予定です。

##### 【収益の部】

- 基本財産運用収益                    . . .    株式配当金は、144,264,666円を見込みます。  
株式以外の債券の利息・配当収益を1,434,000円とします。  
以上、合計で145,698,666円を見込みます。
- 寄附金                                    . . .    寄付金を広く募り、5,187,034円を計画します。
- その他の収益                         . . .    主に特定資産のうちの公社債などの有価証券による運用の果  
実を、577,800円とします。  
又、預金の利息等からの雑収益を1,500円見込みます。

**以上、一般正味財産の収益合計は 151,465,000円の予算といたします。**

##### 【費用の部】

- 事業費                                    . . .    事業費は「2. おもな事業の実施計画および活動計画」に記載の事業内容と、これを遂行するための諸経費で構成されます。  
事業費は合計で131,740,000円を計画します。前年度と比較し、6,319,048円の増加を見込みます。
- 管理費                                    . . .    管理費は給与手当、旅費交通費、委託費等の財団運営に必要な費用で構成されます。  
管理費は合計で19,725,000円を計画します。前年度と比較し、2,477,636円の増加を見込みます。
- 資金調達及び設備  
投資の見込み                         . . .    借入の予定なし。設備投資の見込みはありません。

**以上、一般正味財産の費用合計は 151,465,000円の予算といたします。**

以上の結果、収益と費用の差額は、0円となる予算編成になっています。

以上